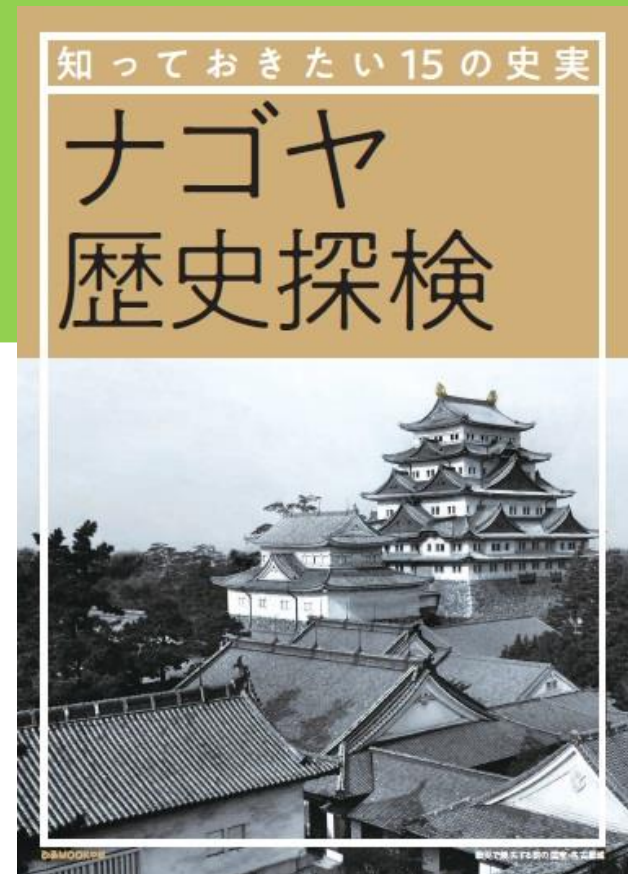


名古屋市教育委員会 「郷土の歴史を学ぶ副読本」

ナゴヤ歴史探検

演題：

「ナゴヤ歴史探検」を編纂して
楽しかったこと・苦勞したこと



自己紹介：

片岡 進矢（かたおか しんや）

元 名古屋市教育委員会学校教育部 主幹

**28, 29年度にわたり「ナゴヤ歴史探検」
制作業務の事務局責任者を務めました。**

ナゴヤ歴史探検

河村市長から下った、“3つのミッション”

- ① とにかく面白いものをつくること。
- ② 一般向け（大人）にも売れるものをつくること。
- ③ 地元出身のベストセラー作家・井沢元彦氏に協力してもらうこと。

担当の決意

どうしたら**今までにない**
副読本をつくれるか？

ナゴヤ歴史探検

28年度 制作実務がスタート

ナゴヤ歴史探検

水谷栄太郎（愛知淑徳大教授、元市博物館副館長）

加藤洽一（名古屋歴史教育研究会顧問）

舟橋武志（郷土史家）

五藤正樹（株式会社ネオパブリシティ社長）

**加藤晴生（鶴舞中央図書館）、村木誠（市博物館）、
三浦友久（当時の指導室長）**

ナゴヤ歴史探検

特別監修者

井沢元彦（作家）

ナゴヤ歴史探検

パートナー事業者

ぴあ株式会社

ナゴヤ歴史探検

制作**開始**

① キーコンセプトの確立

制作**開始**

② テーマの設定

制作**開始**

③ 内容の掘り下げ

制作**開始**

④ **ただ読んで終わりにしない工夫**

産みの苦しみ

① 事実関係の確認

産みの苦しみ

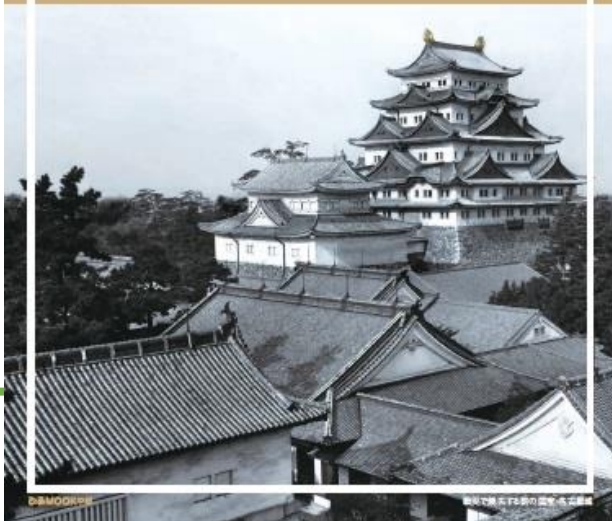
② ネット全盛時代ゆえの“コピペ”問題

産みの苦しみ

③ 意識はしていても、ともすれば大人目線に

知っておきたい15の史実

ナゴヤ 歴史探検



① 表紙

ナゴヤ歴史探検

この本を手にした
中学生の皆さんへ



名古屋の歴史を知り、 郷土愛を深める

歴史ほど面白い教科はない

「暗記しなければならないことがたくさんあってつまらない……」。本書を手にした中学生の皆さんの中には、歴史のことをこんな風に思っている人もいないでしょうか。確かに現在の学校教育の中では時間的にも量的にも制約があり、どうしても暗記中心、通り一遍のものになってしまっているかもしれません。

でも私は、歴史ほど面白い教科はないと思っています。少し見方を変えてみるだけで、あなたもきっと歴史が面白いと感じるようになるはずです。

様々な視点で立体的に歴史を学ぶ

ではどうして、歴史がつまらないと思ってしまうのでしょうか？

理由はいくつか考えられますが、私はそのうちのひとつに教科書で書かれている歴史が主に中央の視点から見たものだからではないかと思っています。実は、地元と非常に関わり

の深い事柄なのに、中央からの視点で書かれているために、身近なこととして受け止められないのです。

例えば本書のP61に、江戸幕府8代将軍の徳川吉宗と尾張藩7代藩主の徳川宗春が、まったく正反対の経済政策を行ったという話が出てきます。教科書では名君ともてはやされている吉宗ですが、こと経済に関する考え方は、断然、宗春の方が正しいと思います。吉宗は幕府政治の安定を図るため、官費を減らし節約に努めました。それを民間にも求めたのがいけなかったのです。おかげで物を作っても売れなくなり、経済の火が消えたようになってしまいました。その反対をやったのが宗春です。彼のとった経済政策は、近代経済学にもかなっている優れたものでした。

でも、教科書には「吉宗は名君だけど、経済政策はよくなかった」という記述はありません。ましてや、同時代に名古屋で優れた経済政策をとった宗春という人物がいたことは一言も出てきません。名古屋の中学生の中にも、本書を読んで初めて宗春の名を知る人が

いるのではないのでしょうか。

ここで皆さんに質問です。吉宗のことだけを習うのと、地元の名古屋に吉宗にも劣らない宗春という名君がいたことを一緒に習うのとでは、どちらが面白いと感じますか？

もちろん、宗春のことを一緒に習う方が面白いですね。中央からの視点と地元からの視点が組み合わさることで、歴史がより立体的に見えてくるのです。冒頭でお話した「見方を変える」とは、まさにこのこと。本書には、縄文時代から現代まで、教科書とは違った視点で、名古屋の歴史が大局的に学べるようになっています。地元の歴史を知れば、より愛着がわき、誇りをもてるでしょう。

史跡を巡り、いにしえに思いを馳せる

私は名古屋で生まれて中学生まで過ごしました。歴史に興味をもつようになったのは、その中学生の時です。修学旅行で京都と奈良を訪れ、数多く残っている古い神社仏閣を見て、何百年も前からそこに同じ場所、同じ姿で建っていることに感動しました。今も、昨

日のことのように覚えています。やはり自分の目で現物を見るということは大切です。

残念ながら名古屋は戦災でまちが焼け野原となってしまったため、古い建物があまり残っていませんが、それでも、今も古い時代の様子をうかがい知ることができる場所や施設がたくさんあります。こうした場所を本書では「フィールドワーク」として紹介していますが、中学生の皆さんには、ぜひ足を運んでほしいと思います。例えば、P28～33で取り上げている桶狭間の戦いのゆかりの地などは、フィールドワークには格好の場所。わずかな軍勢で今川軍に挑んだ織田信長の気持ちになって巡ってみれば、この歴史的な戦いをより身近なものに感じることができるでしょう。

歴史は私たちの祖先が脈々と紡いできた「人間ドラマ」。人としての生き方を学ぶ最良の教科書だと思います。これを活用しない手はありません。中学生の皆さんには、本書をきっかけに、歴史からぜひ多くのことを学んでもらいたいと思います。

特別監修

井沢元彦

Motohiko Izawa



Profile

1954 昭和29 年 名古屋生まれ。早稲田大学法学部卒業後、TBSへ入社。報道記者時代に書いた経緯推理小説「徳川御用行」で江戸川乱歩賞を受賞。その後、TBSを退社し、作家となる。独自の歴史観で、「謎解きの日本史」が学校では読んでもらえず、日本史の探検家など、歴史に関する著書も多数執筆している。大正大学、種智院大学で客員教授を務める。

ナゴヤ歴史探検

行ってみよう!



本誌の**特色**紹介

③ フィールドワーク素材の紹介

ナゴヤ歴史探検

スマホで
動画が
見られる!



本誌の**特色**紹介

- ④ 各章に設定した独自コンテンツ
「YouTube」チャンネルとの連動

ナゴヤ歴史探検

名古屋市教育委員会 「郷土の歴史を学ぶ副読本」

ナゴヤ歴史探検

演題：

「ナゴヤ歴史探検」を編纂して
楽しかったこと・苦勞したこと

